

# きょうりつ 便り

**特集**  
新病院新築移転5年を迎えて  
災害拠点病院  
当院にDMAT発足

お仕事カルテ  
薬剤室

Vol.30

2019.9.  
Autumn  
<http://www.hiroshimairyō.or.jp>

秋号

## 特集

# 新病院新築移転 5年を迎えて

地域連携部 権藤正広、看護師 村上成美、院長 村田裕彦、研修医 草本慎一



広島共立病院は9月1日で新築移転して丸5年を迎えました。開院10日前に広島土砂災害が起こった当時のこと、そして5年間の取り組みについて、村田院長が、5年前に入職した村上看護師、今年入職した草本研修医、そして地域連携部の権藤さんと共に振り返ります。

## 新病院へ移転する当時について

**権藤**「新病院建設の計画はいつからされていたのですか」

**院長**「2008年からです。検討を進めている最中の2011年に東日本大震災が発生し、それを機に新病院建設を急がないといけないという機運が高まりました。災害に強い病院にしようというコンセプトを基に本格的な設計に入っていました。そして2014年7月に新病院が完成。9月1日の開院に向けて引っ越し準備を進めていた8月20日、広島土砂災害が発生しました」

**村上**「災害が起きた日、私はお休みだったのですが手伝いに来ました。CTが壊れたり、大変でした。当時のことはとても印象に残っています」

**院長**「旧病院の1階部分が浸水して、CT室、厨房、検査室などが水に浸かりました。さらに1987年の増築部分は接合部から雨漏り、3階病棟は水浸しになりました。患者さんを移動させるにもエレベーターも浸水して使えず、人海戦術で運ぶしかなかった。職員の皆さんには大変苦勞をかけました」

**草本**「私も、民医連など医療機関の仲間たちがボランティアに行ったなど、話は色々聞きました」

**院長**「全国からたくさんの方がボランティアに来ていただきました。私たちも10日間は地域の皆様の被災状況を見たり避難所を回るなどし、その後、リハビリ棟の2階を12月25日まで避難所と



して提供させていただきました」

**村上**「ボランティアをされていた方が熱中症になって運ばれてきたり、家が流されて無くなったという方もいらっしゃるって、私自身ショックが大きかったです。まだ入職して半年で、同じ地区でこんな大きな災害が起きるなんて…。何が起るかわからないな、と感じました」

## 広くてきれいな新しい病院へ

**権藤**「私は移転前から病院外の職場に勤務していましたが、久しぶりに病院に戻って来たらあまりにきれいで驚きました」

**院長**「コンパクトな旧病院から、面積1.4倍の横に長い病院へ移り、日々の業務で皆さん苦勞されたと思います。1～2年は慣れなかったのが実感です」

**村上**「物がどこにあるのか、なかなか把握ができず戸惑いました。エレベーターはどこだったか、とグルグル迷ったり。でも、きれいな病院はやっぱり気持ち良かったです。患者さんから、大部屋の狭さが改善されて嬉しいというお褒めの声もいただきます。そう言ってくると、モチベーションも上がりますね」

**草本**「手術室の壁の色や動線などには、担当の先生の意見が反映されているんですね、その話を聞くのが面白いです。他の病院の手術室の壁の色はホワイトかグリーンで、どこも一緒なので珍しいと思いました」

**院長**「ピンク、ブルー、ホワイト、グリーンと、手術室によって異なります。新鮮に感じていただけたなら良かったです」

**権藤**「私も、新病院は清潔ですね、と地域の方から声をいただきます。現状に満足することなく、癒しや安らぎがあるような、患者さんにとって良い病院にしていきたいですね」







